

# 人生100年時代の資産運用

真壁 昭夫

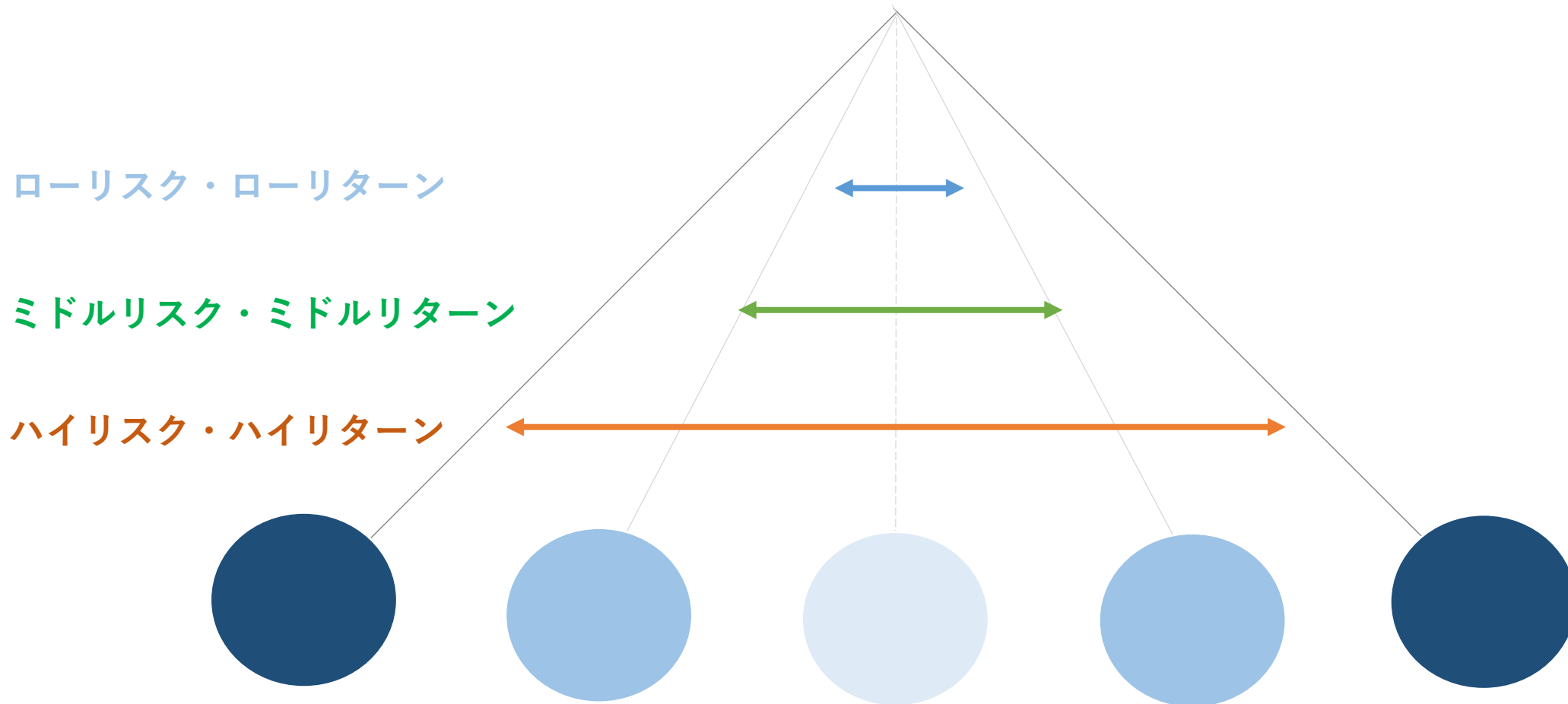
# 投資とは何か

- 投資とは、お金を運用すること
- 預金や貯金をする、国内外の債券や株式に投資する
- バブル崩壊後、日本経済はほとんど成長せず
- 限界迎えた終身雇用
- 平均寿命の延伸（2020年、男性が81.64歳、女性が87.74歳）
- 重要性高まる個人の資金運用
- 資金の運用には、学ぶことが必要
- 学びの成果としてお金を殖やし、人生をゆたかに
- 長期の運用を心掛ける（個人の利点を最大限生かす）

# リスクとリターンの関係を理解する

- リスクとは、不確実性のこと（価格の振れ幅の大きさ）
- リターンとは、利得のこと
- リスクをとると儲かることもある、損をすることもある
- 長期の資産運用のために株式投資は重要
- 長期的な目線で考えると、株式投資は“危険”とは言えない
- 国債利回りは低く、満足のいく利得を得るのは難しい
- どう株式に投資するかがポイント

# 振り子でイメージするリスクとリターン



# 株価は経済成長に連動

- 長期的に、株価はGDP（国内総生産）成長率に連動
- GDPとは、一年間に一国内で生み出される付加価値の合計
- 長期的に経済が成長するためには次の3つが重要
- ①労働力の増加（人口）
- ②資本の増加
- ③それ以外の要素（イノベーション）
- 人口が増え、インフラ整備などの需要が増える国の株価は長期的に上昇する可能性（米国、アジア新興国など）

# 経済成長に必要な要素

- 経済成長には新しい需要の創出（ヒット商品）が不可欠
- ヒット商品の例：ウォークマン、iPhone
- ヒット商品はいずれ飽きられる（需要の飽和）
- 新しい発想の実現に取り組む企業の増加が経済成長を支える
- 新しい発想の実現には規制の緩和などが不可欠
- 時代に合わなくなったルールを改変し、人々のアニマルスピリットを刺激
- 株式投資のためには、新しい発想の背景にある理論、世界経済の変化を学ぶことが大切

# 株価が高い時に株を買わない！

- 株は安い時に買うもの
- 株価が上昇すると、どうしても買いたくなるのが人情
- 「あの人も株を買ったから、私も買わないといけない」
- 周囲につられる心理を我慢する（投資は自分との闘い）
- 高値で買うと、利得を得ることは難しくなる
- 株価が大きく下げた時に買う（例：2020年3月中旬）
- 金額と、タイミングを分散して心にゆとりを持つ
- 安く買えたら、あとは株価が上昇するのを待つ

# ETFか個別銘柄か

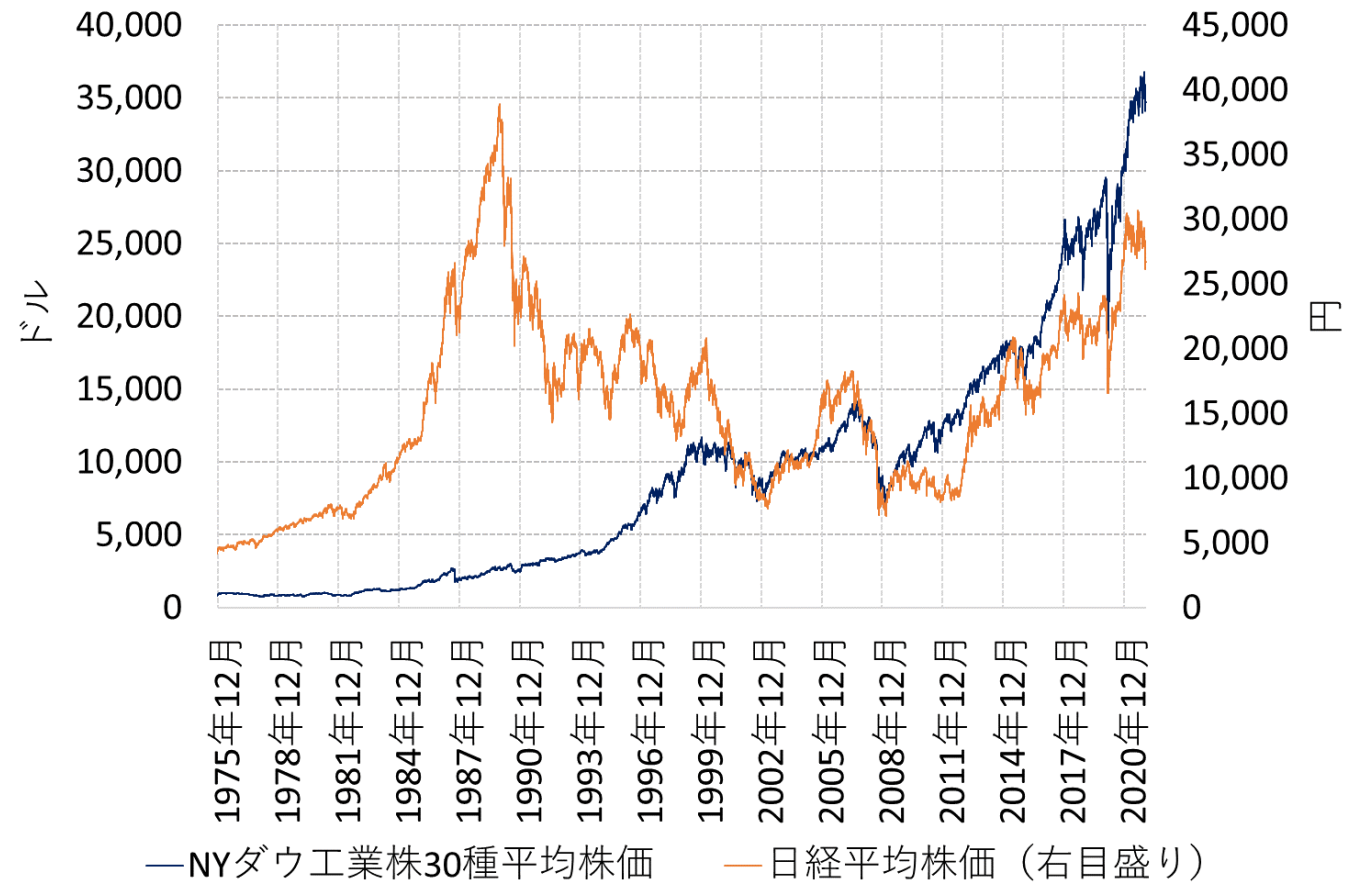
- 重要なことは時間、コスト、リスクを抑えて投資すること
- 分散をきかせた投資には上場投信（ETF）が有効
- インデックスをコピーしているため手数料が安い
- 日経平均、S&P500、ナスダック100など多くの市場に投資可能
- 個別銘柄を買うなら事業戦略や財務内容の調査を入念に
- プロのファンドマネージャーでも市場平均（インデックス）を上回れるの少数
- 銘柄を増やす（分散を進める）と最終的にマーケット・ポートフォリオに行き着く



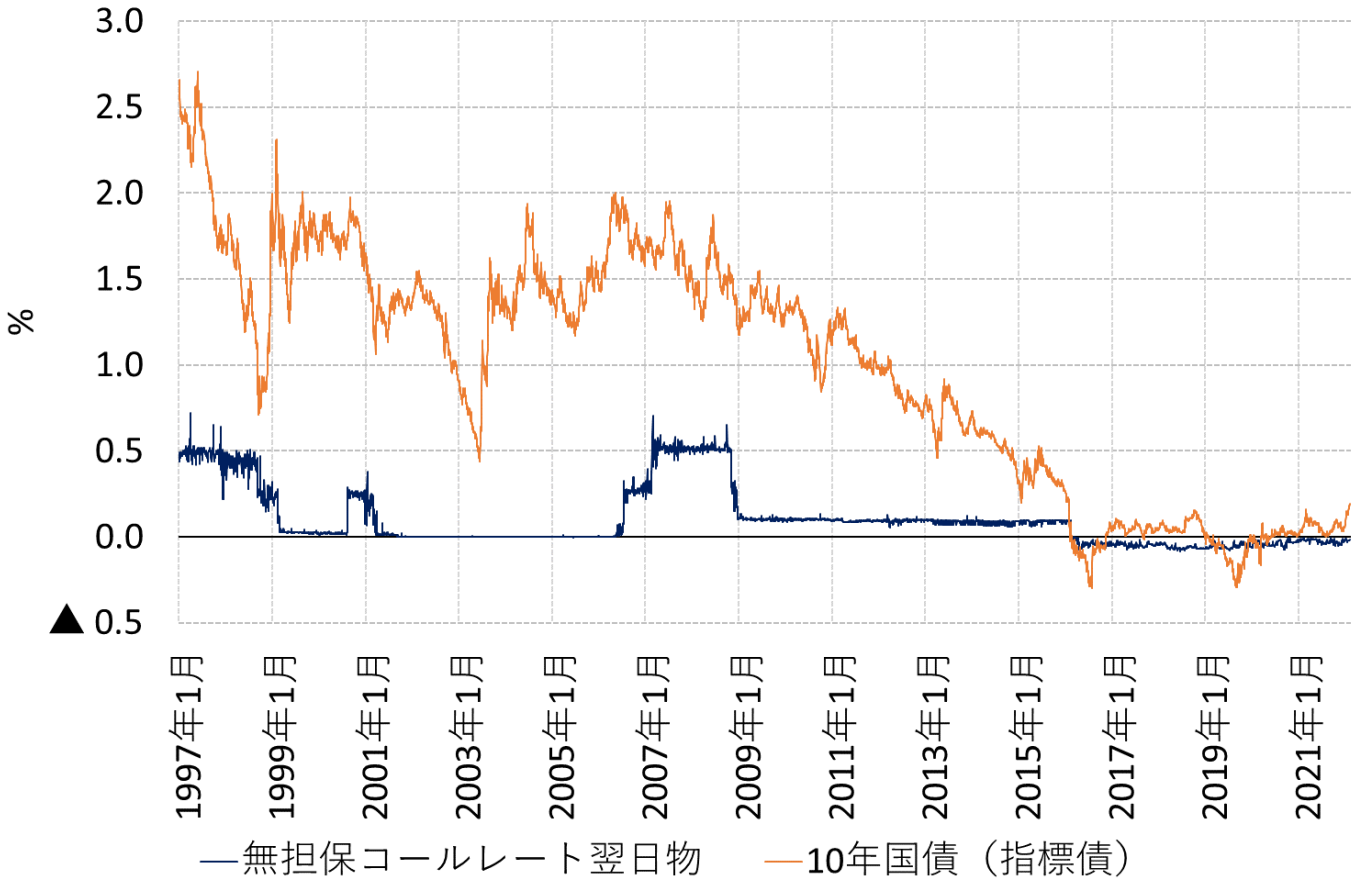
# 外国株投資を考える

- 外国為替のリスクは高い
- まずは海外売上高が増えている国内企業への投資を検討
- 外国株に投資するなら、耐えられる損失額を把握する
- 1株100ドルの米国株に1ドル = 100円で投資すると10000円必要
- 株価が90ドルに下落し1ドル = 90円になると評価額は8100円  
(19%の評価損)
- 米国株などに投資する場合は、株安・円高の局面で行う

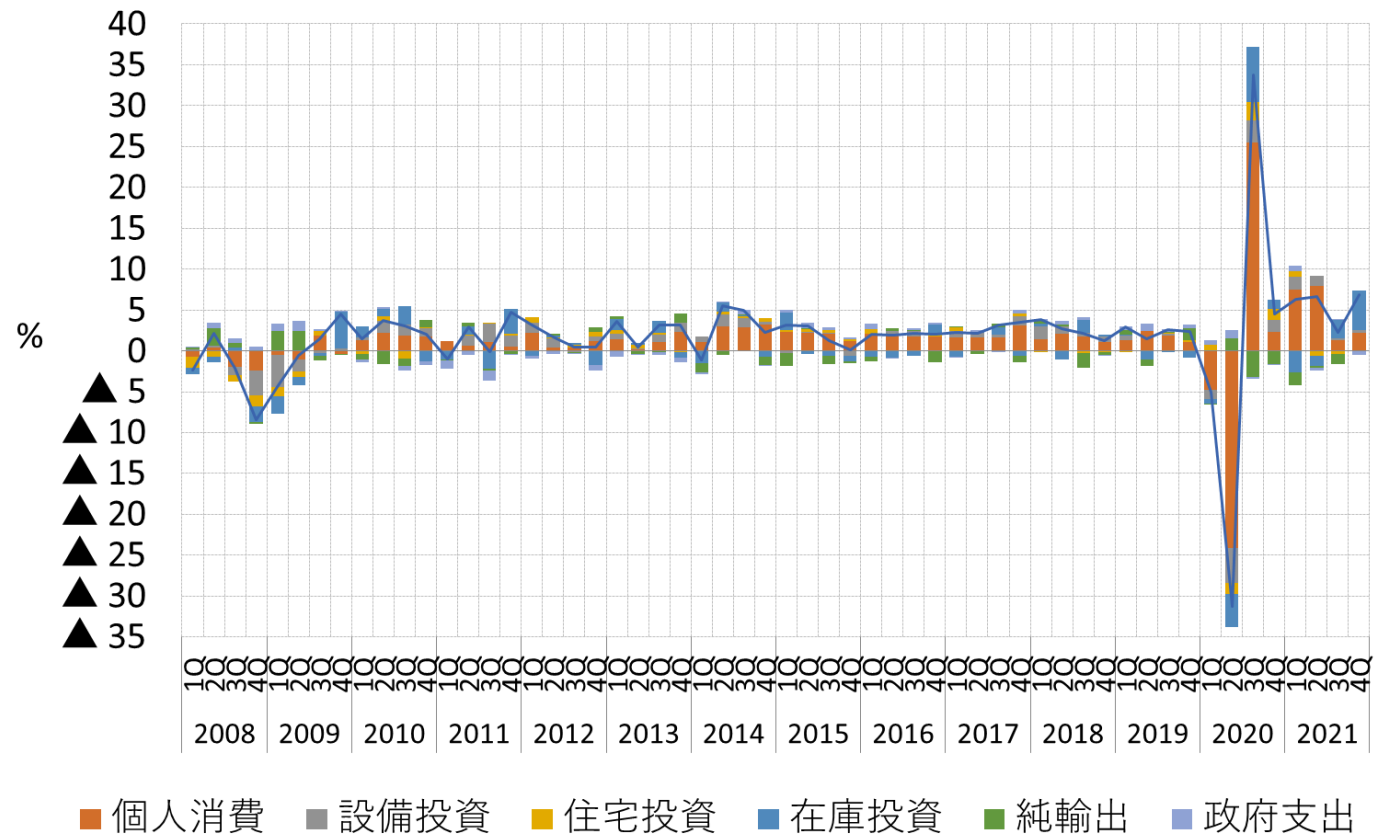
# 日米の株価推移



# 国内金利の推移

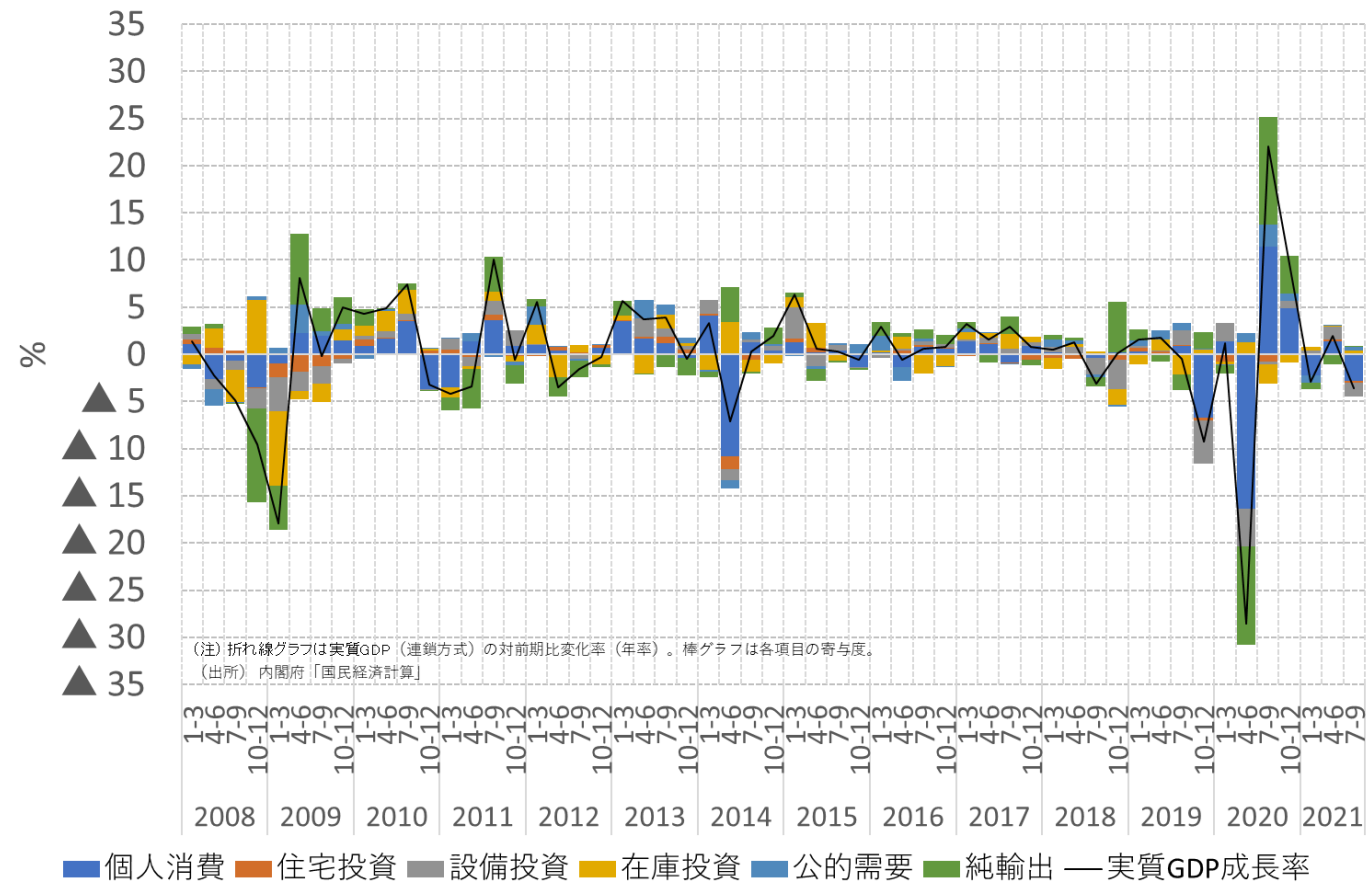


# 米国のGDP成長率の推移

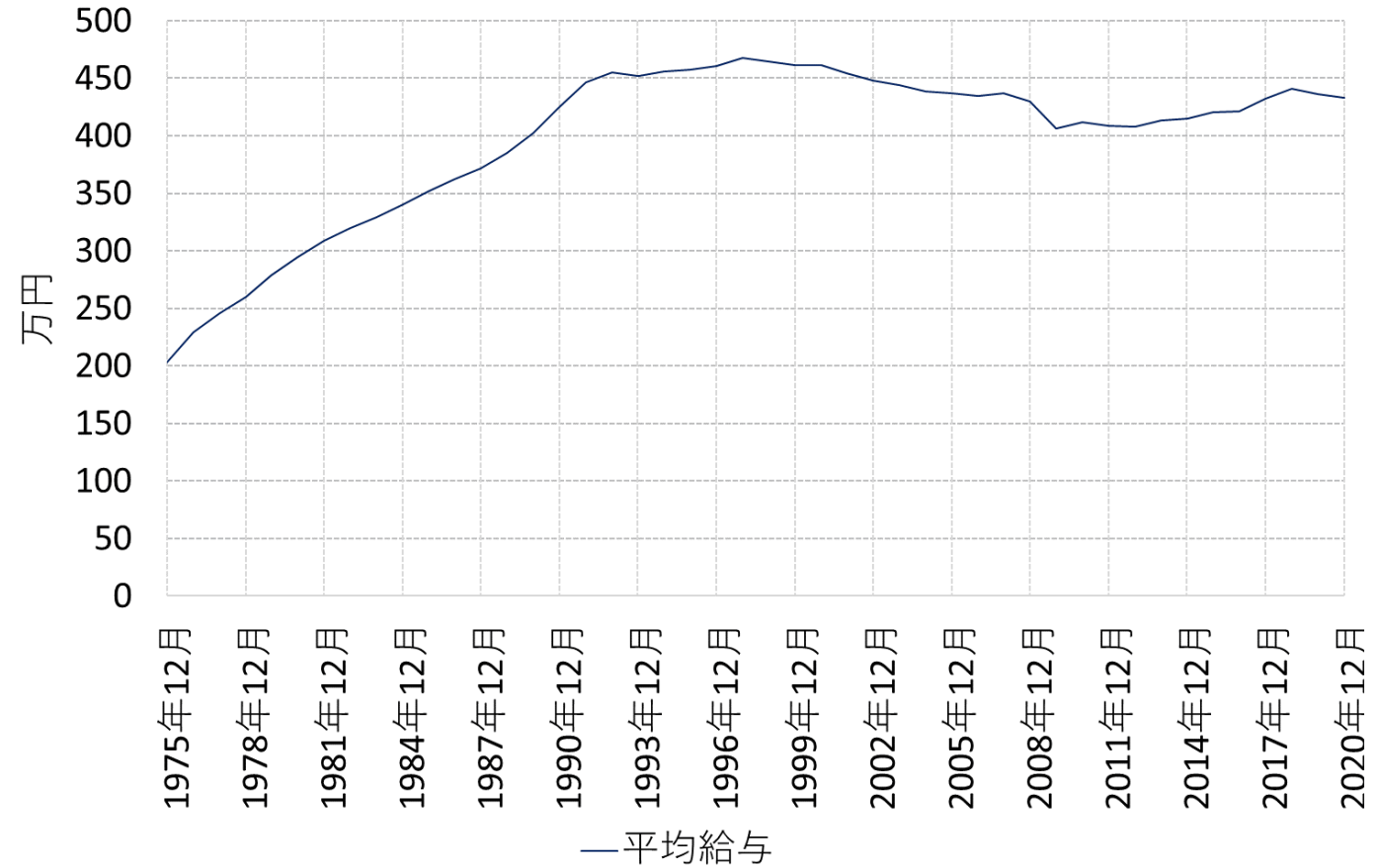


折れ線グラフは実質GDPの対前期比変化率（年率）、（出所）米国商務省

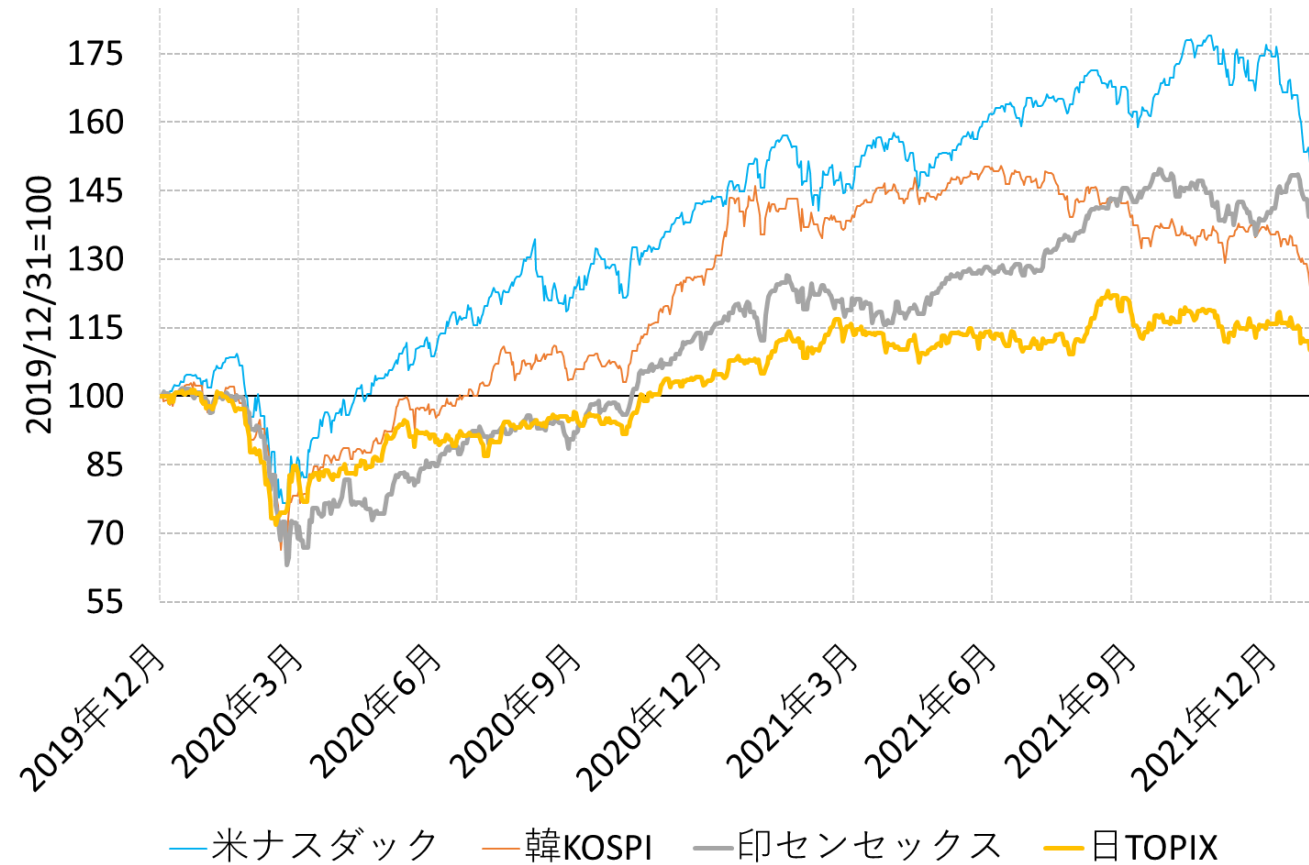
# わが国のGDP成長率の推移



# わが国の平均給与の推移



# 2019年末以降の株価の推移



# 価値関数のグラフ

## グラフの見方

1. 株を1000円で買う  
原点（リファレンスポイント）は1000円
2. 横軸：株価の変化
3. 縦軸：株価の変化に対する満足度（V）
4. A点：100円、株価が上昇した
5. B点：100円、株価が下落した
6. B点の方がVの変化幅が大きい
7. 損失に対してより敏感、利食いを急ぎ、損切が遅れる一因

反対に、伝統的な経済学では  
100円の儲けの喜びと、100円の損失の悲しみは1対1（冷静に判断できる！）と考える

儲けが出ると、嬉しいからすぐに利食う  
損が出ると悲しくて、くやしくて、何もできない。

Vは主観（期待）を反映した満足度（価値）

